

第19回運営企画検討会	資料2
書 面 開 催	

令和2年度の事業実施状況

長崎祈念館 1頁～11頁

令和2年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和3年3月末までの入館者数は、1,901,161人（一日平均192人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（11,758,490人）の16.2%である。

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
平成30年度	139,105人（384人）	103.8%	35,194人	—
令和元年度	147,467人（474人）	106.0%	40,111人	114.0%
令和2年度 ^{（注）}	57,917人（194人）	39.3%	9,440人	23.5%
累計	1,901,161人（250人）	—		

（注）令和2年度は、令和2年6月1日～令和3年3月31日までの入館者数

※ 外国人入館者数とは、館内において外国語版のリーフレットを配布した人数の集計（平成30年度から集計開始）

※ 令和2年度は、上記注釈でも示したとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置で年度当初より2か月間臨時休館となった。国外への渡航制限、県外への往来自粛などの国や自治体の措置も加わり、入館者は大幅に下降した。詳細は19. その他（館内利用）及び20. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組みの項参照

2. 原爆死没者の氏名・遺影の収集状況

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。市、全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
平成30年度	343人	120.4%
令和元年度	329人	95.9%
令和2年度	232人	70.5%
累計	9,930人	—

※減少傾向であるが、関連団体に周知を行い、登録数の増加に努めている。

3. 被爆体験記等の収集・整理状況

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数	対前年比
平成 30 年度	58 人分	37.0%
令和元年度	124 人分	213.8%
令和 2 年度	48 人分	38.7%
累 計	1,504 人分	—

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記を選定し、英語、韓国・朝鮮語、中国語に翻訳を行い、遺影・手記閲覧室に企画展コーナーを設けてゆっくりと閲覧できるように計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン企画展を実施した。

(参考) 企画展実績

○第 10 回被爆 75 周年企画展「残したいあの日の記憶-執筆補助体験記より-」

期間：令和 2 年 8 月 9 日～令和 2 年 12 月 9 日

概要：令和元年度に執筆補助を実施し収集した体験記の中から、5 編を選出し、期間内の毎月 9 日に 1 編ずつ、ホームページ上に掲載（現在も掲載中）

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行い、体験記の収集増に努めた。

(参考) 実績 (収集状況)

年 度	収集数
平成 30 年度	6 人
令和元年度	56 人
令和 2 年度	6 人
累 計 (平成 17 年度から)	81 人

※ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大



執筆補助の様子

防止対策を講じた上で実施。自治体などと協力し、収集に努めている。

6. 被爆者証言映像等の制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言映像を制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 被爆者証言映像実績 (制作・収集状況)

年 度	収録数	対前年比
平成 30 年度	15 人 (うち海外 8 人)	100.0%
令和元年度	20 人 (うち海外 7 人)	133.3%
令和 2 年度	10 人 (うち海外 4 人)	50.0%
累計	485 人 (うち海外 71 人)	—

※海外内訳

韓国 12 人、アメリカ 25 人、ブラジル 20 人、カナダ 5 人、ボリビア 3 人、メキシコ 1 人、ペルー 1 人、アルゼンチン 2 人、パラグアイ 1 人、オランダ 1 人

7. 被ばく医療情報の提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野)の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線Q&A等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話(「被爆者健康講話」。被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供)を行っている。平成 24 年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部(五島市)とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

(参考) 実績 【被爆者健康講話】

年 度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
平成 30 年度	10 回	413 人	133 人	546 人
令和元年度	9 回	439 人	119 人	558 人
令和 2 年度	0 回	—	—	—
累計 (H20 年度開始)	118 回	4,059 人	1,218 人	5,277 人

※全平均受講者数 44.7 人/回

8. 平和へのメッセージ収集、整理状況

平和への行動に参加してもらうため、来館者自身が文字や絵によるメッセージを作成し、祈念館が収集、公開する。メッセージは祈念館で長期間保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

(参考) 実績

年度	収集登録数
平成30年度	4,219件
令和元年度	3,762件
令和2年度	11件
累計	89,196件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メッセージコーナーは3月29日～3月31日のみ開放。自筆式のカード記入は中止。

9. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆60周年という節目の年にあたる平成17年度から実施している。令和2年度はオランダで実施したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、被爆者の渡航は中止し、展示のみ実施。会期中、オランダ政府のロックダウン指示により臨時休館したため、開催期間の延長を行った。

また、広島・長崎の両市が主催してアメリカ（ハワイ）で実施したヒロシマ・ナガサキ原爆展に、当館で製作した被爆体験記集英語300冊を提供した。

○開催場所

日本博物館 シーボルトハウス（ライデン市）

○広島市長、長崎市長から挨拶文をいただくなど両市の協力が得られ、開催期間中、3,281人の方に来場いただいた。



展示会場の様子

(参考) 開催実績 (過去3年)

年度	会場	場所	期間	来場者数
平成30年度	ポルト市庁舎	ポルト市 (ポルトガル共和国)	10月1日 ～11月30日	7,458人
令和元年度	バレンシア カレッジ イーストキャンパス	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月7日 ～10月11日	3,000人
	オーランド公共図書館	オーランド市 (アメリカ合衆国)	10月14日 ～11月2日	2,600人
令和2年度	日本博物館 SieboldHuis	ライデン市 (オランダ王国)	R2年9月25日～ R3年2月14日	3,281人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】13か国・22都市

アメリカ4都市、スペイン1都市、ベルギー1都市、マレーシア1都市、オランダ2都市、トルコ2都市、ロシア1都市、アイスランド2都市、ニュージーランド2都市、カザフスタン3都市、ドイツ1都市、ベトナム1都市、ポルトガル1都市

【来場者数】120,531人

10. 収集資料の多言語化

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験記、証言映像等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 翻訳状況

【体験記】

年度	翻訳数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
平成30年度	5	5	5	3	18
令和元年度	5	5	5	0	15
令和2年度	5	5	5	0	15
累計	169	169	169	44	551

※「その他」フランス語7編、ドイツ語4編、イタリア語3編、スペイン語5編、ポルトガル語3編、ロシア語6編、ベンガル語1編、カザフ語1編、マレー語2編、アラビア語2編、ベトナム語3編、ハンガリー語2編、モンテネグロ語2編、オランダ語2編、ヒンドゥ語1編

【被爆者証言映像】 ※（ ）内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数（編）				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
平成30年度	4(2)	4(2)	4(2)	0	12(6)
令和元年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
令和2年度	3(3)	3(3)	3(3)	2(2)	11(11)
累計	53(21)	53(21)	53(21)	36(18)	195(81)

※「その他」オランダ語5編、ロシア語8編、フランス語8編、ドイツ語8編、アラビア語3編、ベトナム語2編、ポルトガル語2編

11. 平和ボランティア育成外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国・朝鮮語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう育成を行った。令和2年度は7月～11月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（アクリル板の設置等）を講じた上で、開催した。

(参考) 実績

年度	開催講座（ ）：クラス数	受講者（修了者）数
平成30年度	英語（1）、韓国・朝鮮語（1）、中国語（1）	28人
令和元年度	英語（1）、韓国・朝鮮語（2）、中国語（2）	40人
令和2年度	英語（1）、韓国・朝鮮語（2）、中国語（2）	24人

※ 令和2年度修了者内訳 英語8人、韓国・朝鮮語10人、中国語6人

※ 修了者は（公財）長崎平和推進協会の平和ボランティアとして登録され、依頼により当館や資料館の案内、国際会議での対応等に派遣される。

〈ボランティア登録者数〉英語76人、韓国・朝鮮語9人、中国語16人



語学講座受講者（英語）
フィールドワークの様子

12. 被爆体験記朗読事業の実施

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成23年度から事業を開始した。収集した体験記を

有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成24年度と平成25年度の2年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成26年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成27年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成30年度には、第2期生育成講座を実施・完了した。

令和2年度は館内での常駐朗読および「9日を忘れない」朗読会は、8月中旬～12月および3月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（アクリル板の設置等）を講じた上で、開催した。また、第16回定期朗読会をオンラインで開催した。

(参考) 実績 メンバー構成 (令和3年3月末現在) 72人 (女性65人、男性7人)

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (*9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他 (朗読劇など)
平成30年度	178回	18回 (15回)	57回 (学校・団体他)	1回 (映画フォーラム)
令和元年度	174回	14回 (11回)	98回 (学校・団体他)	1回 (Love&Peace Message)
令和2年度	88回	4回 (3回)	21回 (学校・団体他)	

※ 「9日を忘れない」は交流ラウンジで開催

〈活動の様子〉



アクリル板を設置しての常駐朗読
(交流ラウンジ)



第16回定期朗読会
(交流ラウンジ：オンライン開催)

13. 家族・交流証言者等の派遣事業の実施

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」および「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外への渡航は中止した。

(参考) 【長崎市外派遣】実績

年度	全件数	長崎市外			
		家族・交流	被爆体験記	体験講話	聴講者数
平成30年度	102件	66件	36件	—	21,678人

令和元年度	177 件	101 件	76 件	—	33,587 人
令和2年度	56 件	42 件	13 件	1 件	9,226 人
累計 (H30 年度～)	335 件	209 件	125 件	1 件	64,491 人

〈派遣の様子〉



被爆体験記朗読会
(6/25 時津町立時津東小学校)



家族交流証言講話
(9/10 埼玉県立鴻巣女子高等学校)



被爆体験講話
(12/4 雲仙市立千々石中学校)

【海外派遣】

年 度	場 所	期 間	件 数	聴講者数
平成30年度	ポルトガル共和国 (リスボン市・ポルト市・カスカイス市・エストリル市)	9月29日～ 10月4日	9 件 ※家族・交流証言講話 4 件 体験記朗読会 5 件	425 人
令和元年度	マレーシア共和国 (クアラルンプール市)	10月11日 ～10月14日	6 件 ※家族・交流証言講話 3 件 体験記朗読会 3 件	359 人
令和2年度	実施無し			

14. 被爆体験伝承者等派遣事業語学研修の実施

来日外国人に対して、また国外においても講話や朗読が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者および被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる研修を実施した。

(参考) 被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修 ※オンラインによるグループ指導

【中・上級者向けレッスン】

- ・受講者 6 人
- ・実施内容 令和3年2月～令和3年3月 隔週1回 計4回実施

【初級者向けレッスン】

- ・受講者 10 人
- ・実施内容 令和3年2月～令和3年3月 隔週1回 計4回実施

15. ピースネット事業

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の大学、自治体等との海外ピースネットも実施している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、修学旅行で長崎に来ることができない学校を対象にオンライン修学旅行として実施したほか、長崎市内や長崎県内の学校に対しても実施した。

(参考) 実績 ※ () 内数は海外との数

年度	回数	利用団体数
平成30年度	23(6)回	26団体
令和元年度	21(3)回	21団体
令和2年度	38(0)回	38団体
累計(平成16年度から)	417(41)回	345団体

(ピースネットの様子)



2020.9.27 岸和田市立城内小学校
(学校から撮影したピースネット写真)



2020.01.21 早稲田大学高等学院中等部

16. 修学講習(被爆体験講話)の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

(参考) 実績

年度	回数	利用者数
平成30年度	97回	2,376人
令和元年度	153回	4,040人
令和2年度	62回	1,489人
累計(平成20年度から)	1,613回	41,271人

※会場収容人数は最大 40 人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6 月～8 月の期間は収容人数を半分の 20 人以下で実施した。

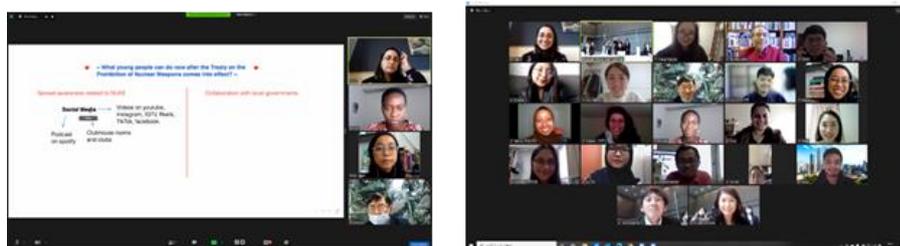
17. 国際協力・交流プログラムの実施

平成 21 年度のマレーシア海外原爆展の開催を契機としてアジアの若者との連携ができたことから、長崎祈念館が特徴とする国際協力・交流にかかる平和ネットワークの構築とその広がりをめざし、各国の若者が被爆地・被爆者を知る平和学習、長崎で平和活動に取り組む若者との意見交換等の交流、被ばく医療を含めた国内外の専門家によるシンポジウムなどのプログラムを実施している。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外からの招聘を中止し、オンラインで開催した。

(参考) 実績

年度	国名/招聘	期間
平成 30 年度	マレーシア 7 人、韓国 6 人、中国 6 人	11 月 14 日～11 月 20 日
令和元年度	マレーシア 7 人、韓国 5 人	2 月 7 日～2 月 14 日
令和 2 年度	海外からの招聘無し	
累 計 (平成 22 年度～)	マレーシア 72 人、韓国 60 人 インドネシア 1 人、中国人 24 人	—

※令和 2 年度は、前年度参加者による「フィードバックセミナー」をオンラインで実施。9 か国 20 名が参加し、この一年間の取組みについて発表、意見交換を行った。



〈セミナーの様子〉

18. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から、来館者に対する新たなサービスの提供・利便性の向上について、展示方法や設備の改修等も含めた「情報システム機器更改展示整備基本計画」を広島祈念館とともに策定した。

19. その他（館内利用）

・学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者60人以下（通常の半分の人数の利用制限）、職員による対面での説明・参加者による合唱、平和への誓いなどは行わないなどの対策を講じた上での利用とした。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成19年度から統計開始。

年 度	件 数 (学校数)	利用者数
平成30年度	351件	19,491人
令和元年度	411件	24,139人
令和2年度	212件	11,038人
累計(平成19年度～)	2,014件	114,057人

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流ラウンジで実施している「核兵器廃絶市民講座（核兵器廃絶長崎連絡協議会主催）」の開催等、多くの市民が参加するようなイベントはほとんどが会場変更や中止となった。

20. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

- ・臨時休館：令和2年4月1日から5月31日まで（前年度2月29日から引き続きの休館）
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の朗読会、被爆者健康講話などを中止した。
- ・再開館時の取組：
 - ①各入口にサーマルカメラ（検温）・消毒液設置
 - ②館内一方通行
 - ③館内配布物（チラシ等）の撤去（リーフレットのみ配布）
 - ④折鶴コーナー、平和へのメッセージカード記入等、不特定多数人がさわるものの撤去
 - ⑤追悼空間の椅子の利用禁止、交流ラウンジの配置換え（椅子と椅子の距離をとるなど）
 - ⑥資料館との連絡通路（地下2階）の閉鎖
 - ⑦総合案内にアクリル板設置等

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

平成30年度

令和元年度

令和2年度

平成30年度						令和元年度						令和2年度					
区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比	区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比	区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H30 4月	8,791	48,051	18.3%	108.8%	107.8%	H31 4月	9,666	51,854	18.6%	110.0%	107.9%	R2 4月		990	—	—	1.9%
5月	15,084	95,146	15.9%	95.0%	92.1%	R1 5月	16,758	104,208	16.1%	111.1%	109.5%	5月			—	—	—
6月	13,243	51,824	25.6%	95.3%	89.2%	6月	15,501	56,386	27.5%	117.1%	108.8%	6月	915	3,688	24.8%	5.9%	6.5%
7月	10,979	34,051	32.2%	106.9%	76.4%	7月	11,592	39,242	29.5%	105.6%	115.2%	7月	3,193	8,143	39.2%	27.5%	20.8%
8月	14,793	62,110	23.8%	108.2%	86.0%	8月	14,958	65,575	22.8%	101.1%	105.6%	8月	5,312	16,753	31.7%	35.5%	25.5%
9月	12,363	52,685	23.5%	106.6%	93.8%	9月	13,418	53,959	24.9%	108.5%	102.4%	9月	4,582	22,389	20.5%	34.1%	41.5%
10月	16,186	92,334	17.5%	101.0%	96.7%	10月	22,711	108,372	21.0%	140.3%	117.4%	10月	9,944	55,718	17.8%	43.8%	51.4%
11月	15,970	82,758	19.3%	120.4%	109.8%	11月	18,465	89,317	20.7%	115.6%	107.9%	11月	15,548	64,191	24.2%	84.2%	71.9%
12月	7,427	38,962	19.1%	89.3%	98.0%	12月	9,091	48,433	18.8%	122.4%	124.3%	12月	9,234	33,364	27.7%	101.6%	68.9%
H30 1月	6,753	35,301	19.1%	98.6%	111.7%	R2 1月	7,880	32,848	24.0%	116.7%	93.1%	R3 1月	1,519	4,171	36.4%	19.3%	12.7%
2月	7,576	37,307	20.3%	106.0%	107.0%	2月	7,427	29,734	25.0%	98.0%	79.7%	2月	1,609	4,700	34.2%	21.7%	15.8%
3月	9,940	47,818	20.8%	110.2%	97.1%	3月		12,719	—	—	26.6%	3月	6,061	19,680	30.8%	—	154.7%
合計	139,105	678,347	20.5%	103.8%	96.2%	合計	147,467	692,647	21.3%	106.0%	102.1%	合計	57,917	233,787	24.8%	39.3%	33.8%
累計	1,695,777	10,832,056	15.7%	—	—	累計	1,843,244	11,524,703	16.0%	—	—	累計	1,901,161	11,758,490	16.2%	—	—